

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース
2017年10月

Jae-Eun Choi 崔在銀

Paper Poem

会期：2017年10月20日（金）－2017年12月2日（土）

オープニングレセプション：2017年10月20日（金）18:00－20:00

開廊時間：火-土（日月祝休）12:00－19:00

MISA SHIN GALLERY は、10月20日（金）から12月2日（土）まで、崔在銀の個展「Paper Poem」を開催いたします。

1953年ソウル生まれ、1972年の来日を機に生け花に魅せられた崔在銀は、草月流の三代目家元・勅使河原宏に師事、器に花を生けるという生け花の表層を超えて、その空間概念や宇宙観を学びます。



崔在銀, Paper Poem No.11, 2012年, aged paper, 83x87.5cm

1980年代から生命や時間をテーマに制作してきた崔が、今回 MISA SHIN GALLERY で展示する「Paper Poem」は、崔が2010年から2016年に渡りドイツを拠点に制作した連作です。当時住んでいたベルリンのアパートのゴミ捨て場に、古本が捨てられる様子を目にした崔は、それらを自分のアトリエに運び込みます。そして古本から何も印刷されていない見返紙や遊び紙のページを切り取りコラージュを制作します。19世紀後半から20世紀にかけて生産された紙は、時間と露光によって淵が焼け、重なり合うページの繊細な色調は、何層にも堆積した時間となってフレームの中に集結します。そのコラージュのグラデーション

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

ョンに見られる構造主義的なコンポジションは、真上から見た都市における建物のようでもあります。

過去30年間に渡って崔の作品に通奏低音のように横たわる時間において、とりわけ樹の時間は人間の時間と対比されながらも、永遠とも思える長い周期を廻る生命の連続性からなっています。Paper Poemにおける紙とは、単に古びた紙ではなく、樹の時間が人間の知恵と記憶の時間に変容し結実したものであることを示唆しています。

本展では Paper Poem と関連して樹の彫刻が設置されます。彫刻の周囲の床には古い紙に書かれた詩が丸めて置かれ、鑑賞者はその紙に書かれた詩を拾って読むことができます。読み終わるとまた床に戻され、次の鑑賞者によって読まれ、紙は柔らかな感触を持った物質へと変化して行き、展覧会の会期が終わる頃には、別の詩へと循環して行きます。

MISA SHIN GALLERY では初めてとなる、崔在銀の個展「Paper Poem」、どうぞご高覧下さい。



崔在銀, アショカの森から, 2017年
bronze, gold coating, 18×15×43cm

崔在銀 Choi, Jae-Eun

1953年ソウル生まれ。76年より東京に在住し、草月流で華道を学ぶ。80年代から生命や時間をテーマに作品を発表し始める。91年サンパウロ・ビエンナーレ、95年には日本代表の1人として第46回ヴェネチア ビエンナーレに参加、2016年に第15回ヴェネチア建築ビエンナーレに出品するなど国際展への参加多数。主な個展として、「ルーシーと彼女の時間」サムソンロダングギャラリー（ソウル 2007年）、「アショカの森」原美術館（東京 2010年）、プラハ国立ギャラリー（2014年）など。現在、韓国のDMZ(Demilitarized Zone：非武装地帯)において「Dreaming of Earth（夢の庭園）」プロジェクトが進行中。

お問い合わせ：info@misashin.com tel:03-6450-2334

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

崔在銀

Paper Poem

ユ・ジンサン/ Jinsang Yoo (キュレーター、美術評論家)

書物の本質がテキストだとすれば、もっとも美しく、生き生きとしたテキストは、時間の流れとともに徐々に色あせていく紙そのものだと言えよう。時折、読者の視線は印刷された文字から滑り、それらが浮遊している空間に留まる。日常の光によって焼けた古書の縁は、それが単に空っぽの空間ではなく、具体的な事物であり、私たちと同じ時間のなかにも共存してきた存在であるという事実を気づかせる。本のなかには、いかなるテキストも印刷されていない空白のページが残されている。表紙の次のページの見返し紙や、表紙と本文の間に入る遊び紙など、これら剰余のページは、実用性はないものの、よりゆっくりとした読書のリズムを読者に持たせる文学的装置のようにも見える。

崔在銀の「Paper Poem」は、原美術館における個展「アショカの森」(2010)以後、ドイツで制作された連作である。当時、住んでいたアパートの廃品置場に古本が捨てられる様子を目撃した崔は、それらを自分のアトリエに持ち込んだ。そして、古書から何も印刷されていない空白のページを切り取り、配列しはじめた。出版されて約半世紀を経て変色し、日焼けしている様子は、まるで柔らかい果実や花びらの断面のように、美しい階調と立体感を呈する。白い裏紙の上に置かれたこれらの古紙の深さと存在感は、時間に対する全く新しい感覚を呼び起こす。紙と紙が重なり合う構成主義的なイメージは、古い建築物からなる都市を上から眺めているような感覚すら起こさせる。紙と紙の間にわずかな距離を保ちながらも、それらがひとつの塊となり、古くて何もないページは、巨大な時間の構造を可視化するかのようである。

古い時間というテーマは、過去30年間に渡って、崔の作品のなかで一貫して捉えられてきた。「World Underground」プロジェクトから、「Lucy and Her Time」、「アショカの森」などの展覧会を経て、現在、韓国のDMZ(Demilitarized Zone : 非武装地帯)で進行中の「Dreaming of Earth (夢の庭園)」プロジェクトに至るまで、世界とそれを構成するさま

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

さまざまな存在の、その時間に対する思惟は、崔の作品のなかで多様な形で表現されてきた。そのなかでも、木の時間は、人間の時間と対比されながら、救援と愛、忍耐と献身を具現化する主体の存在そのものを見せてくれる。森と庭園、木の幹とそれが根ざす大地は、永い周期を循環する生命の連続性に対応する。「Paper Poem」の紙とは、木の時間が人間の知恵と記憶の時間に対応し、変容した結実である。

本展では、「Paper Poem」以外に、木からなる他の作品がある。木の垂直性は人間の起立を連想させ、人間と同様、重力に対して垂直に立つことでその実存を表す。起立した木の断面を通して、崔は人間と文明がそれといかなる関係を結んだのかを見せようとする。まるで鏡のように、木はそれと関係を結ぶ存在の姿を形象化する。枝が切られた木の幹とそこに由来した紙の空白は、木が人間の文明と時間に捧げた、救いと自己犠牲の記号である。アショカ王が救援の徴として造成した森、戦争の悲劇の真ん中で命の実を結んだDMZの原始林とそれらを貫く生命の庭園。崔在銀は、長久な自然と世界の時間のなかで人間の微細な時間を捉える唯一の方法が「詩」しかないという事実を、これらの作品を通して提示する。「Paper Poem」は、まさにこのような思惟を圧縮した視覚的な俳句なのである。

(翻訳：馬定延)